

ところが、その年の五月に植された木。
くすの木物語——これは
今までの城南小学校の卒業生
およそ 4500人の人たちの思い出話です。

くすの木が 南の国からきたこと

くすの木が 大きく成長したこと

くすの木が 困ったこと

くすの木が 見たもの

くすの木をめぐる話を読んでみましょう。

きっと

きっと なにかが あなたの心に……。

昭和62年 3月

丹南町立城南小学校

「もう枯れたんちがうか。」

と、村のおとなや、子どもたちみんなが心配しかけた大木があります。城南小学校体育館の南東にある高さ10数メートル、幹のまわり3メートル30のくすの木です。

昭和59年5月の末。

あたり一面は、緑の葉が出揃ったのに、このくすの木だけは、枯れてしまったのか、新芽を出しませんでした。

「きっと今年の冬の零下14度の冷え込みにあって、弱ったんやろ。」

「新しい体育館がたつときに、古い校舎の材木などが近くで燃やされ、その熱さのためにやられたにちがいないわ。」

「このくすの木が枯れたら、この木に何かを刻み、記念に残しておこうや。」
と、いった話まででて、みんなはあきらめていました。

それもそのはず、
このくすの木はすっかり年をとり、
もう100年以上も生きているからです。

ところが、その年の6月12日。

小指大の、緑がかった紅色の、ういういしい新芽が3ヶ所に見つかりました。

子どもたちも、先生も、近所の卒業生も、「わッ！」と、歓声をあげたのです。

〔老クスノキよみがえる〕

と、新聞にもでました。

まさかと思っていた、あの老くすの木が、生き返ったのですから、みんなの喜びははかり知れません。



老クスノキよみがえる

丹南町、城南小



クスノキの新芽を観察する児童ら＝丹南町小学校、
城南小

初々しい新芽が3つ

はすがした
凍死した

児童ら生命力に感動

クスノキに夢が出たゾー。

今年の厳しい寒さですっかり

葉を落らせ完全に“凍死”

したと思われていた多紀樹丹

南町小学校（谷垣

勤校長）のクスノキの大木に

直根が一筋近くあり、樹齢百

まで冷え込んだ今年の寒さで

木が秘めた生命力の強さ、不

思議さに、児童らは感動

新芽を観察している。

同校のクスノキは、根元の

ところが、マイナス一四度

ダウン。さらに、体育館の前

に併せて数週間、クスノキ

の真横で発芽が燃やされるな

どの“パンチ”まで受けた。

このため、同様に寒を枯ら

した同郡内の他のクスノキが

五月末に新芽をふき始めた

も、同校のクスノキだけは、

その気配がなかった。谷垣校

長も「伝統のクスノキを枯ら

せてしまい申し訳ない」と

ため息つくことしきりだっ

た。そのクスノキに十二日、小

指大の糸がかった紅色の、切

らしい新芽が三ヵ所に見つか

った。たちまち、児童も先生

も根元に駆まり、「あつ、あそ

こ、出てる出てる」と歎声が

上がった。元気な男の子は軽

さや色を観察する遊びよう。

新芽の発見で職員の黒板に

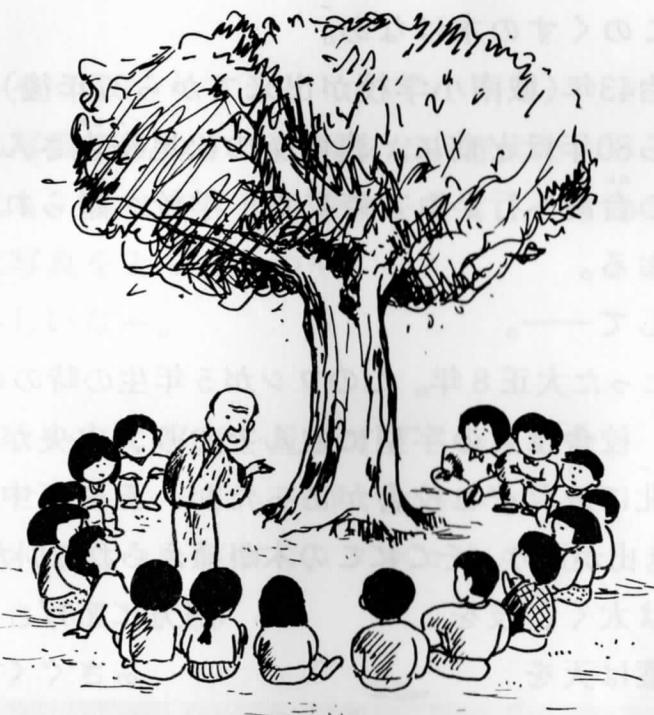
「クスノキ、芽をふく」と天

書されたほど。近所に住む草

様子で、伝統のクスノキの無

事を見んでいる。

— 神戸新聞 59, 6, 16 —



昭和61年も終わりのある日。

わら細工を教えに来て下さった、

80さいにもなろうとするおじいさんは、

「このくすの木の、もっともっと

古い物語を話してやろう。」

と、おっしゃいました。

みんなは、くすの木のまわりに集まりました。

このくすの木はなあ。

明治43年(城南小学校が出来てから37年後)、

今から80年ほど前に、真南条の松尾権吉さんが、暑い南の台湾へ行かれる時にな、学校へ贈られたと聞いておる。

そして——。

9年たった大正8年。このワシが5年生のことや。

当とうじ
時じ、校舎はコの字型に並んでおり、中央が本館、
南と北にそれぞれ校舎があったが、その真中に玄関
のつき山があり、そこにこの木が植えられていたのや。

幹は太く、枝を

四方に広げ、

緑の葉は天を

ふさぐくらいで

その近くは昼でも
やった。

うす暗いありさま



ワシらは、昼休みのひとときをここへ来て、鬼ごっこをしたり、かくれんぼをよくしたものだ。

焼けつくような日には、絶好の日よけとなり、雨や雪の日には、大きなカサとなってくれたなあ。

そうそう。

当時は写真をうつすことが少ない時代で、男も女も、みなカスリの着物を着て、くすの木の前で記念写真をとったものや。

なつかしいなー。

(と、いって写真を見て下さいました。

見せてもらっている間、おじいさんは、くすの木を見つめながら、タバコをぷかぷかとふかされました。)



その後。

日本の國は、海外へ大きく進出することになったが、
やがて悲しくも、
日本は世界の各国と戦争をすることになっての。
戦いは激しくなり、日本は敗れたんや。

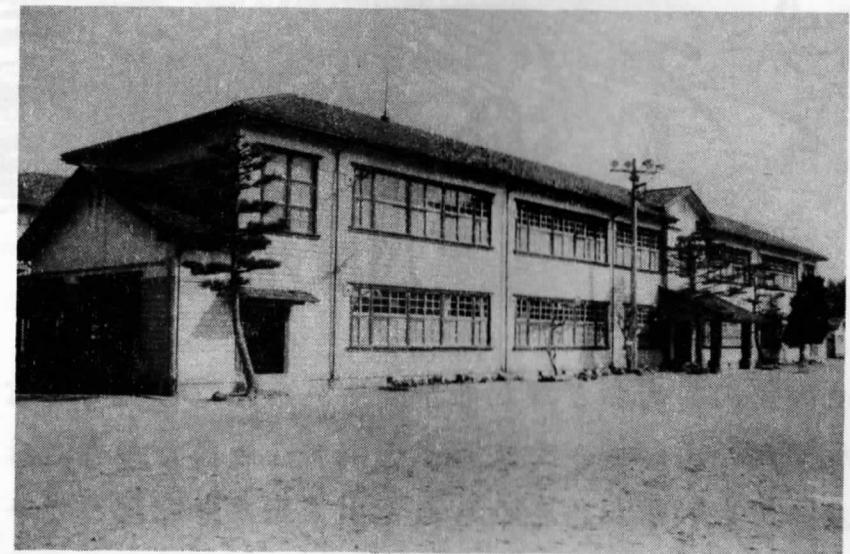
人々のくらしは日に日に貧しく、
食べるるものさえ、満足にない日が続いたのや。

梅ぼし一つの日の丸べんとうを持ってくる子や、
くつはなく、ぞうりをはいて学校へくる子も、この
くすの木は見とったにちがいないなあ。



こんなふじゅうな時でも、村の人は古くなった校舎をたてかえようとなさったのや。

今あるこの校舎が、4年半もかかって、昭和20年に
でき上がったのやで。



そして、校舎のたてかえといっしょに、運動場も
もっと広げることになり、このくすの木は、また植
えかえられることになったのや。



大勢の村のおとなたちが来て、みんなの見守るなかで、いよいよ、くすの木をたおすことになった。太い、太い根が、もこもこと出て来たかと思うと、ミシ、ミシ、ドーン!! と、大きな、大きな音をたてて横たわったよ。



そのとき、あたり一面に、くすの木特有のよいかおりをまき散らしたことを覚えてるね。

そして、木があまり大きかったので、そのまま植えかえるのもむずかしく、しかたなく枝を落とすことになったんじゃ。

人々は荷車にのせ、

「ヨイショ、ヨイショ、ゆっくりいけよ、ゆっくりいけよ。」

と、今のここに運んできたというわけじゃ。



見てみ!!

上がすっぽりと切られているやろ。

(その時、切られた木の株の上に、一わのすずめが止まりました。すずめもおじいさんの話を聞きたがっているようで、みんなもクスッと笑いました。

くすの木は、また横から枝を出して伸びています。
おじいさんの話はつづきます。)

でも、クスは、いくつかの植えかえや、暑さや寒さにもめげない、底知れない強さをもっている木でなあ。 戦争で、広島や長崎に恐ろしい原子爆弾が落とされたとき、草や木はすべてはえないだろうとうわさされたが、一番早く芽を出したのが、くすの木であったといわれるくらいだから——。

秋。

PTAの役員さんが、くすの木の根元をいたわるよう、丸ブロックでかこいをして下さいました。校樹らしく、カッコよくなりました。晴れた日には、すずめたちが木の上でさえずっています。

クスは、きょうも「おはよう」と、やさしく迎えてくれ、夕方には「さようなら、あすも元気で」と、みんなをはげましてくれているようです。

クスノキさん

あなたはいつも

日が照ると	一葉一葉で笑いかけた
雨が降ると	清らかな涙を流した
風が吹くと	子供達と歓声をあげた
春の日は	希望でいっぱい、はつらつとしていた
あつい日は	燃えるような元気であった
秋風の中で	静かな澄んだ姿で立っていた
寒い冬には	只今じっと耐えていますと言っていた

(新聞を見て寄稿下さった、川西市の辻 才三さんのことば)

＊＊＊＊ 校樹 くすの木によせて ＊＊＊＊

—「学校だより 特集号」から 61.10 —

今ほど教育の荒廃が社会問題化し、いじめ・非行・登校拒否等、多くの問題をかかえている時はありません。本校も小規模校でありながら、問題行動の多様化に頭を痛め、児童の健全育成を願って、日々取り組んでおります。

本年度、都道府県道徳教育講座会場校の指定を受け、研さんに勧めている毎日ですが、児童の身近なもので生きた道徳教材をと思ったのが、校木にくすの木を指定するきっかけでした。

学校教育、特に道徳教育推進のためには、家庭・地域のコミュニケーションが大切なことです。幸い本校区はコミュニティー活動等を通して、児童の健全育成には多大の関心を頂き、多くの教育効果をあげております。

かつて城南校に学んだ先輩達、今、学んでいる児童が、このくすの木を生きた道徳教材として来ました。此度、部落の方々にくすの木に寄せる思いをご投稿募集しましたところ、多くの文章が寄せられました。くすの木の由来、枯れかかった木に若芽が息吹き、枝葉を繁らせている姿、この姿から「若者よ、たくましく生きよ」と熱い思いを託されています。

この部落の方々のお声を本学校教育の生きた教材、身近な本校に寄せるお心づくしとして、感謝しながら学ばせていただきたいと思います。

開かれた学校、地域と共にある学校は理想の学校の姿です。ここに、「城南だより」号外として、地域の皆様のお声を掲載し、共に道徳教育推進にお力添えを頂きましたことをうれしく思います。このことが、地域の話題として、更に大きな輪としてふくらんで参りますことを念じつつ、今後共、本学校教育推進に格別のご理解・ご協力・ご支援を頂きますよう、お願ひ申し上げます。

♦♦♦ 我が母校のくすの木 ♦♦♦

真南条下 松尾 正

先日、城南小学校、私の母校を訪問いたしました。その節、校長先生より、本校校庭に植栽されている、あの老大木のくすの木を子供達の意見のままに、校木といたしましたとのお言葉をお聞きしました。くすの木は本県、兵庫県の県木でもあり、本校のあの大樹くすの木も明治より君臨いたしており、本校にふさわしく、誠に結構なことですねと、言葉を結びました。

かえりみますればこのくすの木、明治後期より現在に至るまで、二転三転移植され、現在地に繁茂しているのですが、もとは本校もコの字型学校様式で、その中央中心の管理校舎の玄関前の前庭、築山の中心木として、幹太く、枝を四方に広げ、緑葉は天をふさぎ、その近辺はうす暗い有様でした。卒業生は年々この樹をバックに卒業記念写真を撮影するのが常であり、当時、写真をうつすことの少ない時代、希少価値の写真、男子も女子もみなカスリの着物姿で写したものでした。この木の近くには、何とも言えないくすの木独特の芳香を発し、心をなごませてくれました。又、この木の板は桐のたんすの引出し等の内部用材に使用され、この香りの成分により、たんすの中の衣類に虫がつかないとかで、重要視されていました。

皆さんも、この樹のように人にすかれる芳香の人物で、虫よけになり、悪い虫、学校に行くのがいやになる虫、いじめの虫、わるさをする虫がつかない立派な城南っ子になってくれることと、確信いたしております。

♦♦♦ 校樹くすの木に思う ♦♦♦

岩崎 酒井 実

私が城南校に学んだのは、大正年間であった。そのころ、校庭をはさんで南北側に教室があり、東側に本館があった。玄関前の築山には、太いくすの木が繁っていた。

ある日、担任の先生から、お前達もあのくすの木の様にのびのびと成長して元気で頑張れ。とさとされたことが、今だに私の脳裏に深く刻み込まれて忘れない。

『光陰矢の如し』とか、あれから六十年の歳月は夢の様に過ぎ去ったが、今、そのくすの木は、その後校庭の西北に移植され、永年の風雪にもよく耐え、先年の酷寒にもめげず、見事によみがえり、今は新装成った体育館横で、たくましい根っこを張って緑豊かに生い繁り、今回は伝統を誇る城南校のシンボルにふさわしい校樹に指定されたと聞くが、二十一世紀のにおいてとして将来を嘱望される在校生も、この輝かしい校樹くすの木にあやかって、確固たる信念をもって大いに励み、頑張ってもらいたいと心から祈念する次第である。

◆◆ くすの木の思い出 ◆◆

真南条下 円谷 房子

私は大正五年に小学校に入学しました。四年生まで真南条の分教場で勉強し、五年生になって本校の城南尋常高等小学校へ通いました。

当時の小学校はコの字型の校舎で、校門を入ると、突き当りが玄関、右が職員室、左が応接室になっていました。職員室の前に築山があって、その中心に大きなくすの木が枝を四方に広げ、一入暗さを保っておりました。そのくすの木は真南条下の松尾権吉氏が明治の末期に台湾へ移住される時、記念に寄贈されたものだと聞いております。

私達はお昼休みのひとときをここへ来て、鬼ごっこなどしてよく遊びました。

終戦と同時に新校舎が改築され、校庭の中ほどに位置を占めるようになりました。私の子供はそのころ小学校に通っていましたので、参観日などで学校を訪れますと、見上げるような大樹となつたくすの木は、年輪を重ねて幹は太く、枝はますます栄え、校庭に堂々と君臨していました。枝は重なり合って木陰を作り、雨の日はカサとなり、晴れた日は小鳥がさえずり、やさしく人々の心を育んでくれました。

このくすの木もやがて運動場の都合で移植されることになり、大勢の村の人達の手で堀り起こされました。太い根が土の下から出て来て、みんなの見守る中、大音をたてて横たわりました。くすの木は芳香をあたり一面にまき散らし、大きくゆれた枝はよならと手を振っているようでした。「この木からショウノウが取れるんやなあ」そばにいる人達と話し合いました。

大勢の子供達を迎える、学校のシンボルとなつたくすの木も、時代の波に流され、一時校庭から姿を消しましたが、今は新装成った体育館のそばで子供達に見守られつつ、静かに余生を送っております。

人去り人来り、時代は移り変わって、このくすの木の由来も知らぬ人が多くなつてしましましたが、古い校舎で学んだ私達の脳裏からは、くすの木の思い出はつきることはないでしょう。

◆◆ くすの木の思い出 ◆◆

真南条下 宮本恵津子

私は昭和六年に城南小学校に入学いたしました。そして、一年生より四年生まで真南条分教場へ、五・六年生の二年間は本校の方へお世話になりました。

今、くすの木についての思い出と申しますと、ちょうど、今の運動場の中央くらいに玄関、職員室とが一棟ありました。校舎は北側に一棟、南側に一棟とあり、コの字型になっていました。そしてその玄関の前に奉安殿があり、その後に築山がありました、その中に大きな大木があつたのが、今思いますと、くすの木であったような気がします。そして、くすの木と書いた白い板札がかかっていましたでしたかしら。

玄関附近は昼でもうす暗く、うっそうとしていたように思います。

真南条下、松尾権吉さんが寄せられましたとか、何十年、つい百年程もたっているのでしょうか。大木を植えられた方は故人となっておられます。

でも大木は益々大きくなつて、二度・三度の移植にもめげず、校舎の側で、毎年入学してくる児童の成長を見守ってくれることでしょう。

プラタナスの木にも思い出があり、今更の如くに城南小学校に益々の愛着を感じているのでございます。

◆◆ 校樹くすの木に寄せて ◆◆

小枕 西野 勇

私が、城南小学校で育まれたのは今から、六十三年から七一年前の、大正五年四月から大正十三年三年まででした。大正十四年四月から、京都の師範学校に入り、昭和五年三月に卒業してから昭和四十二年三月までずっと京都府下で、勤めておりましたので、その間の変遷は全然わかりません。

しかし、おぼろ気ながら記憶をたどってみると、城南かい道に面して、コの字型に建つた古い校舎の真正面に玄関があり、その前に築山があり、その真中に奉安殿があり、玄関との間に大きな「くすの木」が一本ありました。今よりずっとよく繁っておりました。それから幾変遷を経て、現在の校舎に新築される際に、現在地に移植されたものと思われます。

更にそれから四十年、昭和五十九年初頭の、マイナス十四度の冷え込みにあり、更にまた体育館の新築に伴つて、廃材が近くで燃やされたその熱さにも耐えてきました。その為、都内の他のくすの木が五月末に新芽をふき始めているのに、この「くすの木」はその気配がないので、もう枯れたのではないか。と先生方も児童達もそして地域の人々も、大へん案じていたのです。

ところが、昭和五十九年六月十六日の神戸新聞紙上に写真入りで、六月十二日に、小指大の緑がかった紅色の初々しい新芽が三ヶ所に見つかった。児童も、先生も、近所の卒業生も、枯れなくてよかったです、と伝統の「くすの木」の無事を喜んでいます。と報じました。

樹齢が百年以上と推定されるこの「老くすの木」が秘めた生命力の強さに、今更ながら感動を覚えずにはいられません。私達の先輩達、そして私達から後に続く多くの卒業生が、この偉大な生命力を持った「くすの木」に見守られて育てられて來たのです。これからもずっとこの「くすの木」をモットーにして、知・徳・体の育成練磨に励んでほしいと、切に祈ってやみません。

◆◆◆ くすの木に思う ◆◆◆

岩崎 酒井 満子

朝、校門をくぐれば「おはよう。」と、やさしく迎えてくれ、夕方には「さよなら、あすもお元気で。」と、はげましてくれた。

樹齢は、とたずねても、定かではないが、焼けつく様な炎天には絶好の日除けとなり、又、雨や雪には大きなカサとなって、温かく子供達を見守ってくれている偉大な巨木ではあったが、ひところ枯れるんやないかと心配されていた。

でも今では、一段と力強くしっかりと根を張り、枝を繁らせ、皆を包みこんでくれる様な元気な姿によみがえってくれた。

ちょうど、いろんな試練にぶつかり、ざ折しそうな時、又、社会に出ては、荒波にもまれて自分を見失いそうになった時でも、たくましく乗り越えてこそ、皆から慕われる様になるとの教えだったのでないだろうかと思う。

城南っ子達もきっとこの校樹の教えを忘れず、いつまでも心に残る愛着をもち、心の糧として成長していくことだろう。

◆◆◆ くすの木の思い出 ◆◆◆

真南条下 松尾 薫

くすの木が城南小学校の校木ということで、今、体育館前脇にある、くすの木の思い出を語れといわれました。何しろ小学校低学年からのことで記憶もあいまいですが、述べてみたいと思います。

——くすの木の由来——

くすの木は、現在、三田市に在住されている松尾五郎氏の父君権吉氏が、明治四十三年に台湾へ行かれる時に、家の庭にあったくすの木を城南小学校へ寄贈されたものです。それを小学校の玄関脇に植えました。大正八年、奉安庫が玄関前方に造営され、その飾り植栽として多くの樹木が植えられ、その一つにこのくすの木が移植されました。

当時の城南小学校の校舎は典型的なコの字型で、中が本館、南が高等科、北が尋常科、本館中央北寄りに玄関があり、ちょうど現在の運動場の中央に玄関があり、奉安殿がありました。

——くすの木の感想（昔）——

くすの木については、小学生のころ、担任の先生が歴史の時間にくすの木と武将の話をよくして下さいました。それで、今でもくすの木の印象が深く脳裏に残っております。当時、くすの木の大木が、真南条下の西の端の小林という家にあり、屋根よりもはるかに高く、周囲に家や物がなく、遠くからよく見えました。くすの木は到る処に沢山あるのですが、当時の自分は幼く、視野も狭く、くすの木といえば、小林家の木と城南小学校奉安庫の木の二本より無いのかと思う位でした。

——くすの木の感想（現在）——

松尾権吉氏寄贈の城南校木たるくすの木は、奉安庫の造営や校舎の改築の度に移植され、現在の場所に来ましたが、昭和五十九年、冬の冷害により、葉は一枚もなく、枯木同様になっていました。松尾権吉氏の分家に当たる松尾宗司氏が、くすの木が枯れたら、これを素材として何かを刻み、小学校に記念に残しておきたいといわれておりました処、春になると数カ所より芽を吹き、葉となり、現在の様になりました。

広島も、被爆地にて一番先に芽を出したのがくすの木だと。広島の被爆中心部周辺に多くのくすの木が植樹されております。生命力の強いくすの木にあやからんためだと思います。

わが兵庫県木でもあるくすの木を校木として持つ城南の誇りです。くすの木の如く常に芳香を放ち、悪に立ち向かう防虫の精を藏し、年中変わらぬときわの緑を小学校に学ぶ者の指標、あこがれとして、くすの木を眺められることを念願致します。

◆◆◆ 「がんばれ」くすの木 ◆◆◆

野中 田中 政和

雨の日、風の日も何もいわず、長い月日を耐えぬいているくすの木が、今日も子供達の健康な笑顔に、何か物語っているように見えます。

しかし、そのくすの木の根元を見ると、土を雨や風にさらされ、哀れな姿になっていました。

先日、PTAで土の補給をしました。くすの木がいつまでも緑豊かに枝葉を繁らせ、子どもたちの健やかな成長を見守ってくれますように願う一人です。

わが城南っ子も、本年度のPTAの基本目標として掲げているように、「小さな芽を伸ばそう」　くすの木のように、強い意志をもった「根性」と「勇気」で元気に育ってほしいものです。

***** わが校の自慢 *****

— 朝日新聞 61, 9, 30 —

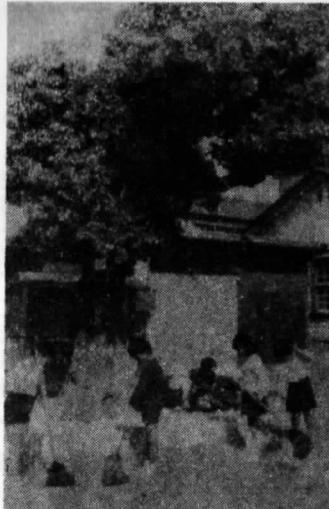


校歌が流れ、校庭のボールにて、六年生の生活委員によって校旗が掲げられます。その間は、ある時回りが三回以上止まる事も珍しくないのです。この運動場で元気で遊んでいた人たのも、しばらくは遊びをやめたまま、寂しそうに立っています。この変わってきた長い年月の中で、校庭に背中を向けています。

クスノキと共に育つ

*** ぼくらのシンボル クスノキ ***

— 朝日新聞 61.10.23 —



「」の木のように「力強くなろう」校樹クスノキの周囲を掃除する児童たち

卷之三

た教材」にむかうため副読本編集

のがいま、一番必要」と訴えた
近成校長はクスノキをたたのシ
ンボルとするだけでなく「生徒

教育の実施が社会問題化され
いじめや非行が横行する中で
「子供たちの心の支えになるも

に、あきらめかけた六月十二日に新芽が出た。「生命力の強さ」に学校中が感動した。

九年、初夏を迎えたとしているのにクスノキは芽吹かなかつた。伐採して何かを刻み記念品

ぼくらのシンボル クスノキ

町小枕の城南小学校（近成語）目に「アラクノキ」の古木。高さ

たくましさ学ぶ

丹南·城南小

教育の窓

ぼくらのシンボル クスノキ

移植に耐えた生命力

校樹に決まつたクスノキを囲んで遊ぶ児童たちと多紀郡丹南町の城南小学校

陽のよう
(児童代表 岸本 智美)

*** 校樹「くすの木」に学ぶ ***

— 兵庫 P T A 62, 2, 1 —



学校から

根元に丸レンガを並べ根
をいたわるようにした。

(会長 田中 政和)

緑豊かな田園の中に、
赤茶色の屋根をした木造
校舎は、今や一種の文化
財的風格を備えて、人の
ぬくもりさえ感じる。

この四十二年目になる
校舎よりも、ずっとむか
しから残っているものが
一つある。それが樹齢百
年といわれる幹回り約三

校樹「くすの木」に学ぶ

多紀郡丹南町立城南幼・小PTA

木のくすの木である。再
三の移植や嚴寒に耐えて
きた、生命力の強さに改
めて目を見張る。

木を、ふるさと城南を愛
する子どもたちの心の支
えとなるよう、校樹と設
定し、シンボルとした。

木のくすの木である。再
三の移植や嚴寒に耐えて
きた、生命力の強さに改
めて目を見張る。

木を、ふるさと城南を愛
する子どもたちの心の支
えとなるよう、校樹と設
定し、シンボルとした。

子どもたちには、朝会
や運動会等の学校行事に
おいて話をしたり、また
役員会や会報を通じて理
解を深める。そして奉仕。
付けをはかる。会員には
学生をさせたりして意識
付けて理

くすの木は学校と家庭
・地域とを結ぶ生きた教
材であり、まさに子ども
たちの幸・樹となるであろ
う。樹齢千年へ、根よ張
れ、幹よ太れ、葉よ繁れ
と呼びかけている。

*** 学校の歴史 ***

明治6年	(1873年)	野中支校創立（野中村西禪寺の側）
明治12年	(1879年)	小枕小学校新設
明治25年	(1892年)	真南条3か村、二村神社境内に草葺校舎新築
明治42年	(1909年)	小枕尋常小学校、真南条尋常小学校設立 城南尋常高等小学校と改称
大正10年	(1921年)	高等科2教室新築2,000余円 10月13日を創立記念日とする
昭和3年	(1928年)	屋内体操場並びに講堂落成 5教室改築、増築
昭和6年	(1931年)	校章新制定
昭和16年	(1941年)	城南国民学校と改称、校舎改築着工
昭和19年	(1944年)	ラジオ拡声機設置
昭和20年	(1946年)	新校舎2階建落成 集団疎開児童受入、薪炭食糧の増産
昭和22年	(1947年)	城南小学校と改称、高等科なくなり、中学校 発足、本校内併置
昭和25年	(1950年)	各教室に放送設備設置
昭和26年	(1951年)	講堂落成 407万円
昭和30年	(1955年)	真南条分校新築
昭和35年	(1960年)	丹南町立城南小学校と変更 学校完全給食開始
昭和39年	(1964年)	学校プール完工 535万円 丹南中学校新校舎に伴い、小学校は単独校舎 となる
昭和42年	(1967年)	各教室にテレビ設置
昭和43年	(1968年)	真南条分校を廃止し、統合する
昭和46年	(1971年)	校門拡張新設、観察池設置
昭和47年	(1972年)	城南小学校新校歌制定 創立100周年祭、国旗掲揚柱完成
昭和49年	(1974年)	タイムカプセル収納
昭和54年	(1979年)	城南幼稚園新設、本校舎内併置 本館、北校舎外部全面塗装

昭和59年 (1984年) 体育館新築落成 1億2,300万円
昭和60年 (1985年) プール浄化そう取替 360万円
昭和61年 (1986年) 運動場南側廃水対策として、U字溝設置

***** 校 歌 *****



城南小学校之歌

一朝日に輝く四季山は
樹々のいろどり美く
わが学び舎に照り映えす
明るい希望の花に満つ
育つ若芽苞やかに
樂々進みてたまなし
文化の泉りくとも
二学び舎近くせうきは
小松川の清流れ
はるか海原目ざし
はすく進みてたまなし
明るい城南小学校

※「くすの木物語」は小学校在学中、3年生と6年生の2回、
道徳指導補助資料として活用したい。
資料保管は校長室とする。

昭和62年3月24日

編集委員

昭和61年度 城南幼稚園・小学校職員一同

印刷所 篠山町堀印刷所